

理数科 卒業担任 講話

を実施しました（6月4日(木)3年F組教室）。

6月4日(木)⑤校時、理数科3年生F SⅢの授業を活用して、卒業担任講話が実施されました。昨年度3学年理数科担任の藤田秀樹 教諭が昨年度の理数科3年生の進学状況を、一昨年理数科担任であった池内理人 教諭が、既卒受験生の進学状況を報告しました。以下に、滝高理数科先輩たちの受験のアドバイスを記載します。

受験体験記 01（Nさん）

皆さんこんにちは、元理数科のNです。私は今年の春から、山梨県の都留文科大学の文学部国文学科に進学することになりました。

理数科に入って良かったことは、課題研究を通して、コミュニケーション・ツールとしての英語を知ることができたことです。自分が英語を喋ることで、他の言語を使う人たちとも会話ができるということを実感できたのは、本当に良い経験でした。世界には、言語は違っても、私達と同じように考え、話をして、生きている人たちがいる、ということ強く感じられました。

また、道外研修に行ったことも、とても良い経験になりました。私は東北研修に参加しましたが、生物の住む環境のことや、東日本大震災での被災地の様子、そこに住む人々など、様々なことに触れ、多くの刺激を受けました。単なる知識としてではなく、感情を伴う経験は、自分の中により強く残ると思います。ぜひ、機会があれば参加してほしいです。

高校生活で必ずやってほしいことは、勉強の習慣をつけることです。最初は短い時間でも構いません。とにかく毎日勉強する習慣をつけることが大事です。慣れれば勉強はずっとやりやすくなります。勉強をするときは、自分が納得できるまで勉強しましょう。納得できるまで質問したり、教科書を読んだりしてみてください。他の人に納得されなくても、自分が納得できる覚え方をすればいいです。やり方は語呂合わせでも、好きなゲームと関連づけても、なんでもいいんです。自分の頭の中から引っ張りだして、使える知識になっていけば勝ちです。

次に、今年受験生の皆さんに言いたいことは、最後まで諦めないことです。私自身、センター試験後の都留文科大学中期試験の判定はD判定でした。私もほぼ受かることはないだろうと諦めていましたが、合格しました。受験は最後まで、何があるかわかりません。自分のやりたいことを最後まで貫いてください。

志望校の選び方としては、自分の譲れないものはなにかをしっかりと意識して考えるといいと思います。志望校のランクを下げようと思った時も同じです。偏差値や大学の有名さ、道内、道外など様々な要素がありますが、その中で自分が譲れないものは何か？学びたいことは何か？を意識して考えるといいと思います。自分が絶対に譲れないものがあるとしたら、絶対譲らないでください。自分の将来です。周りの意見に流されず、自分を貫いてください。

最後になりましたが、ここまで読んでいただきありがとうございます。私が皆さんに伝えたいことは以上になります。文章を書くときに壮大に書いてしまうところがあるので、読みにくい文章だったかもしれませんが、自分の伝えたいことを頑張って表現したつもりです（笑）！本当に最後になりますが、高校生活では、何でも自分ができる精一杯の努力をしてください。部活も勉強も何でも諦めずに最後までひたむきに取り組んでください。頑張ったことは、必ずいい思い出になります。精一杯努力して、頑張ったとしてもいい結果につながらないこともあります。でも、そのときに自分は頑張った！やり切った！と思えることが一番重要だと思います。後からあのときにこうしていれば…とか、本気を出さなかつただけで…とか、カッコ悪い言い訳を自分にさせないでください。何事も全力で取り組んでいけば、必ず全部自分の力になります。皆さんの高校生活が充実したものになることを祈っています。

受験体験記 02 (T くん)

皆さん、こんにちは。今年信州大学に入学した、Tです。理数科では様々な実習、公演など、自身の知見を広めるにはとても良い環境でした。それなので、皆さんも将来を決める際の参考にしてみたらと思います。また、理数科の皆さんは大学、専門学校へ進学する人がほとんどだと思いますが、授業の復習をしつかりする事、3年生は今までの内容を思い出す事、模試を受けた時のとき直し等、模試の復習をちゃんとする事、自分は何になりたいのか、おおまかで良いので定める事、志望校のオープンキャンパスに参加する等、志望校の事は調べる事などはしつかりやっておきましょう。特に3年生はこれらを怠ると後に後悔するかもしれないので、できるだけ早くやり始めましょう。

今はコロナだとかで行事の中止など自由に行動できず大変ですが、目標を持って日々の勉強を頑張ってください。

受験体験記 03 (T さん)

こんにちは。私は藤女子大学に入学することになりました。文学部日本語日本文学科です。ここではなんと奈良現代までの日本文学を勉強できます。興味がある人はぜひ調べてみてください。

ここからアドバイスになります。私は軽い気持ちで、どこかの国立大学には入れるだろうと考えていました。ですがセンター試験で見事に失敗し、第4志望ですらE判定、1月半ばで私立大学の受験を計画し大変な思いをしました。もちろん1番は一生懸命勉強することが大切ですが、念のために、私立大学やすべり止めを考えておいて損は無いです。最後に後悔のないように勉強頑張ってください。

受験体験記 04 (Y くん)

受験を終えて、いくつか皆さんに伝えておきたいことがあります。初めに志望校の決定についてです。僕は先生との面談などを通して、東北大学に興味を持ち、オープンキャンパスに行って、「この大学で学びたい」と思い、第一志望校を決定しました。まだ行きたい大学がイメージできていない人は、先生に相談したり、インターネットで調べたりして、本当に行きたいと思える大学を見つけてください。合格したいという思いが強いほど、勉強に対するモチベーションが上がります。

次に学習についてです。学習の仕方は人それぞれありますが、個人的には演習中心の学習をおすすめします。習ったことを使って実際に問題を解くと記憶が定着しますし、しかも試験勉強に直結するからです。あまり難易度の高いものでなく、解きやすいものから手を付けていくと良いと思います。また、どの科目もまんべんなく取り組むのが理想的ですが、どうしても気が向かないときには、自分の好き・得意な科目を進めるのが良いと思います。僕自身、勉強なんてしたくないと思うことは多くありましたが、そこで学習量をゼロにするのではなく、少しでも机に向かえたことが良かったのかなと思います。

最後に受験を通してもっとも大切だと思ったのは、余裕を持った学習です。僕を含めて多くの3年生が、センター試験が近づいてから焦りを感じ、これまでの取り組みについての後悔を口にしていました。自分が先輩方の話を聞く側の中には、あまり危機感を覚えず、その体験談をうまく活かすことができませんでした。皆さんには、いまのうちから全力を出し切るまではいかずとも、少しずつ学習量を増やし、少しでも入試直前に余裕を持てるように取り組んでほしいです。その小さな変化が、最終的には大きな差となって、より良い結果につながると思います。

稚拙な文でしたが少しでも参考になることがあれば幸いです。皆さんの成功を祈っています。

受験体験記 05 (U くん)

私が今回の受験で色々と考えたことや体験したことを、後輩のみなさんに少しでも伝えられたらと思います。今回の受験で私にとって最も鍵となった教科は英語でした。私は英語が苦手で、2年生の冬の時点で、模試の得点が200点満点中60点ぐらいでした。しかし、そんな私でも、センター本番では147点を取ることができました。なぜここまで点数が上がったかというと、勉強方法を変えたからです。3年生の夏までは、単語や文法を中心に勉強していました。しかし、全く点数は伸びませんでした。そこで、残された時間も少なくなってきたので、長文練習中心に変えたところ、少しずつ点数が伸びて、本番でいい点数をとることができました。長文を練習すれば、自然と文法や単語も身に付くので、個人的にはお勧めです。英語は点数が伸びづらい教科です。私も安定した点数を取るのに1年かかりました。それなので、点数が伸びなくても諦めずに先生に聞いたり、私のように勉強方法を変えたりしてコツコツ頑張ってください。

また、私は今回受験を経験して、1・2年生の勉強をもっと真面目にやっていたら良かったと、心底後悔しました。私が受験した科目は1・2年生でやったものが多く、3年生でやった範囲は、ほとんど出てきませんでした。それでも私は、3年生になるまで部活や遊びに明け暮れ、真面目にやってこなかったので、今までやってきたことを忘れていていました。それなので、3年生の授業や定期テストの勉強と、受験勉強を両立させなければならなくなり、とても苦労しました。ですから、受験勉強は3年生からやるのではなく、1・2年生の早い段階から始めるという意識を強く持ったほうがいいです。

最後に、受験は精神的にも肉体的にも辛いことですが、それを乗り越えれば、楽しい大学生活が待っています。辛くてもその先にある明るい未来を思い浮かべ、それを支えにして頑張ってください。応援してます。

受験体験記 06 (W さん)

私は吹奏楽部に所属していました。3年生の8月まで、ほぼ休みなく、毎日部活動をしていました。家に帰ってからも、持ち帰りの仕事があって、食事や入浴、翌日の準備など急いで済ませて、家での自由な時間は3時間取ればいい方でした。3年生になって、部活動をやっていた友達が次々と引退していくなか、自分だけ部活動をしていることがとても不安で、焦りが募りました。勉強時間を確保するために、朝早く学校に行って自習室や教室で勉強したり、休み時間を使って、部活動の仕事や予習・復習をしました。8月になってようやく部活動が終わり、妹と図書館に通い始めました。部活動が終わって時間が出来ると思っていたのですが、模試と講習が沢山あり、自分の勉強が出来る時間は、部活動をやっていたときとあまり変わりませんでした。

私が第1志望を岡山大学にしたのは、11月初旬の模試の結果で、北大をあきらめたことがきっかけです。本当に落ち込んで、ご飯も食べられなくなりました。見かねた母が、道外の国立大学をいくつか紹介してくれました。その候補の中に岡山大学がありました。総合大学で、大きな駅が近く、北海道とは全く違う気候に惹かれました。早速、母と担任の先生に相談し、第1志望を岡山大学に変えて、勉強を再開したのが11月の中頃でした。

それからは、苦手な教科を先生に相談して、プリントを貰ったり、わからないところは質問しに行きました。センター試験まで1ヶ月と少ししかありませんでしたが、本番では、自己最高点をとることができて、諦めずに頑張って本当に良かったです。最初の第1志望を叶えることは出来ませんでしたが、自分のベストを尽くすことが出来たので満足しています。部活動も勉強も、忙しさのせいにして全力を尽くさなかったことが心残りです。忙しくても、時間は作り出すものだと感じました。

本当に辛かったですが、最後まで受験を頑張れたのは、一緒に勉強した友達や妹、相談にのってくれた先生、食事や送迎などのサポートをしてくれた家族のおかげです。本当に感謝しています。最後まで諦めなければ、結果はどうであれ自分の財産になるはずです。全力で頑張って、自分が納得できる受験にしてください！！

受験体験記 07 (K さん)

私の体験は、おそらく珍しいタイプだと思うので、少し語らせていただきます。私は昔から数学や理科が得意で、当然のように大学も理系に進むのだと思っていました。2年の夏に、第1志望を東大の理科二類にしました。それに合わせて部活動を辞めて、勉強中心の生活へシフトしました。東大は、入ってから学部を決める形式なので、学部・学科については特に考えず、合格することだけが目標でした。心が折れてきたのは、ちょうど去年の今頃です。東大の2次試験の問題を初めて解き、ボコボコにされました。まだ解けなくても仕方ないのは分かっているけど、不安で不安で…夏休みが明けた頃から、どんどん数学ができなくなっていきました。解いている途中で、「ああ私には無理だ」と思ってしまって手が止まり、頭も止まり、模試では全統記述模試の第1回から第2回にかけて、偏差値を20落としてしまいました。

そして東大をあきらめ、文転を考え始めました。決めたのはセンター試験出願後の10月です。もはや得意でなくなった理系ですが、始めから理系にやりたいことなんてなかったことに、挫折してようやく気がつきました。ギリギリすぎる(なんならちょっとアウトな)文転でしたが、なんとか東北大に受かることができました。以上の体験から、言いたいことは2つあります。

1つは、得意不得意で理系・文系や学部を決めつけないこと。もちろん、自分の能力を最も活かせるところへ行きたいというのも大事だとは思いますが、何が得意で、そうでないかは、勉強するうちに案外変わってくることがあります。私にとって、数学が最たる例ですが、英語はその逆で、1年の時にはネックでしたが、今では得意教科となりました。まだ難しいかもしれませんが、自分のなりたい職業や、勉強していて楽しいことを軸に進路を考えるといいと思います。

そしてもう1つは、メンタルを軽視しないで欲しいことです。心が不安でいっぱいだと、勉強していてもなかなか集中できなかったり、模試で失敗したりして、また不安が募り…という悪循環に陥りがちです。そして、試験当日も本来の力を出し切れず、というのが最悪のパターンです。あまりこういう事は言わない方がいいのかもしれませんが…ずっと追い詰められているような感じがする人は、1度志望を下げるのも手です。そうして、自信を付けることができれば、また戻って来ればいいのです。下げるタイミングが遅くなればなるほど、再び上げることは難しくなり、心が健康に戻るまで時間がかかります。みなさんが私のような経験をしないことを願っています。

受験体験記 08 (T くん)

こんにちは。平成31年3月に滝川高校理数科を卒業したTです。今回は浪人生の感想ということで担任だったI先生から、依頼を受けたので述べさせていただきます。

おそらく、今の現役高校生で浪人を肯定的に捉えている人は、ほとんどいないと思います。自分もそうでしたから。ところが、現実的なことをいうと、1年後2年後3年後、全落ち、もしくは本当の滑り止め(自分の場合はN大)しか受からなくて、浪人をしなければならない人が必ず出てきます。そこでまず、これから浪人のプラス要素を話していきたいと思います。

1つ目は、自分の人生これからどうしていきたいかを、じっくりと1年考えられるということです。現役生に比べて、1年多く(人生の中の1年なんて大したことないによく聞きます)進路について考えられるということで、一体今の自分は何がしたいんだ?将来こういうことをしたい!などを見つけられる可能性が高まります。そして、それに向けて、このレベルやこんな研究などを参考に受験大学を選べます。

2つ目は、他の有名高校出身の人達と、身近で競い合いながら、学力を高められることです。予備校には、S 幌東西南北、A 川東、O 広H 葉、他、私立の特進出身の人が半分近くを占めていると言っても過言ではありません。そんな頭が優れている人たちと同じ環境で、レベルの高い大学を目指して頑張れば、成績もきっと上がりますし、経験値としてもかなりのものとなります。

3つ目は、さらに高いレベルの大学への合格が期待できることです。実際、自分が現役のときは、N 大学にしか受かりませんでしたが、浪人して早稲田大学、明治大学、中央大学、同志社大学、立命館大学と、上位大学に合格できました。

他にもメリットはたくさんありますが、こんな感じで浪人は決してマイナスなことだけではないのです。自分は浪人覚悟の挑戦で、現役時代に旧帝や早慶上智などを受けるのはありだと思ってます。まあ、私文の私があれこれ言いましたが、現役で受かるに越したことはないので、色々なものに手を出さずに、一つのしっかりとした参考書を何度も繰り返しやりまくって、完璧にする感じの勉強法(浪人のときやった方法)で難関大学合格目指して頑張ってください!応援してます!英単語帳は、一年生から三年生まで、鉄緑会の鉄壁を300周以上やるべき(笑)!とにかく英語は文法・語法を早いうちに極めて!

最後に自分みたいに、東京や大阪京都などに行きたい!ってずっと言っていた特殊パターンの人に伝えたいのですが、もちろん東大・京大・阪大・一橋・東工大・東京外語などの国立を目指すのもありですが、自分みたいに早慶上理、MARCH、関関同立などの私立大学だけを志望するのも、全然ありですからね(お金はかかる、スポンサー(保護者)にしっかりと説明責任を果たす)!しっかり人に流されずに自分の意思を持って!!それでは早稲田大学にて後輩がやって来るのを、楽しみに待ってます。